わかば

発行所
社団法人
ワカバ会
東京都港区赤羽1番地
TEL (451) 0227

御挨拶

会長　西村　三郎

さる五月二十七日のワカバ会の総会に出席いたしましてご挨拶申しあげましたが、大部分の会員の皆様にはこの紙面をお借りしてご挨拶申しあげます。

今野前会長が数々の足跡を残されて都立上野高等学校長にご栄転になり、私はその後任として赴任して参りましたので今野先生のあとをうけ四月から会長の席をけがすことになりました。会則によるとはいえ、不敏の私のことでありますのでその任にたえられるかどうかはなはだ疑問に思っている次第であります。

明年は三田高校（府立第六高女からひきつづき）は創立四十周年を迎えます。したがって、同窓会であるワカバ会は創立三十五周年ということになります。

大正の終りごろから昭和の今日まで、社会の変遷とともに学校もワカバ会も、それぞれ、数々の思い出を秘めながら歴史を築きあげて参りました。今までにない社会の大変化に遭遇しながらも本会はますます発展して、今日では九千有余の会員を擁し、個々の会員はもとより、ワカバ会自体も大いに世に貢献してきたことはご承知の通りであります。創設の恩師丸山先生もまだご健在で、卓越した先生の先見の明のお蔭と、歴代の会長をはじめ役員の方々の愛情あふるるご尽粋で今日の盛会を見るに至っているのであります。

輝かしい発展のあとをうける運命を負わされた私は、まことにその責任の重大さを痛感いたしますが、幸いに会員の皆さまのあたたかいご支援をえて微力ではありますが会の発展のためいささかでもお役にたてばと念願いたしている次第でございます。

会則の検討、会員の憩の寮の建設などの大きな問題をはじめ、保育園の経営、平素の会員のための諸事業の企画運営など私の手にあまる諸問題がありますが、篠塚副会長はじめ役員の方々が献身的に努力しておられるので、日ならずして解決して行くものと思っております。

東京多数の会員の方々はもちろんのこと、遠く各地に散在してそれぞれご活躍の方々も、お手すきのときは母校にお立寄り下さいまして皆様のお顔を見せていただきお声を聞かせていただきたいと思っております。それがワカバ会を強く、温かく、本当に自分たちの会だと自覚する一番の近みちだと信ずるからであります。

会員の皆さまの一層のご協力をおねがいいたしますとともに、一層のご健祥とご発展をお祈りいたしましてご挨拶といたします。

わかばに寄せる

前会長　今野　善胤

秋の気配が濃くなった庭樹のみどりを眺めながら、三田時代のことを想い出しています。三田とお別れして上野の山へ来てから、もう半年を過ぎました。早いものです。私が三田から離れる直前、おめでたと哀しみがつづいたことを想う。おめでたとは丸山初代校長の米寿祝賀式で、三月二十八日、三田、駒場、トキワ松の同窓会が合同して、東都知事、木下教育委員長、松沢一鶴先生などお歴々を迎えて盛大に行なわれた。哀しみとは一日おいて、三十日五代校長の百田治朗氏が逝去されたことである。上野に赴任してからも、間もなく初代校長として人徳を慕われていた高藤先生が逝去されたことであった。「喜びも悲しみも幾歳月」というのは人の世のさだめであることを切に思う。

当り前の人となれ。日常ふだんの事が、当り前にルールに則ってやれる人になれ。とは生徒への訓のことばとしていたが、さて平凡不才のわが身はどうだったか。六年半の長い三田在職中、なすべきことを当然になし得たか、と反省させられる。

三田はほんとうに三田を愛する良き師があり、素質のよい秀れた生徒に満ちており、誇りを荷う、九千名近きワカバ会員がいて、みんながよく協力してくれた。凡才の割に、私の生涯の中で最もめぐまれた仕事のできた時代であった。校舎の内部改装もある程度できて明るくなったし、正門と道路も立派になったし、時計塔もきれいになった。第二グランドの都大のオンボロ校舎の撤去も実現したし、プールの機械設備も東都知事のお骨折りで完成した。視聴覚教室も新設され、教育の近代化を一歩先んじてやれる体制もできた。定時制給食施設の新築整備もでき講堂もすっかり改装され、放送設備も整った。

ワカバ会についていえば、国分寺の土地を売却して、その金を半分はワカバ会の基金として蓄積し半分は保育園の開設に振り当て、今日隆々と発展していることである。これは「文化事業ノ敷設経営ヲ為シ社会ニ貢献スルコトヲ目的トス」というワカバ会の定款の実現であり、丸山先生の意志を継ぐものであった。

これらは職員、生徒、父兄、同窓会員の秀れた協力、理解認識の透徹、近代的センスのお蔭である。

ほんとうに三田はよい学校であり、ワカバ会であった。私の如き凡人にとって、まことに恵まれすぎた仕合わせな六年半であったとしみじみ想い感謝あるばかりである。

昭和37年度　ワカバ会費（一〇〇円）

（34・35・36年度未納の方はその分も）

お一人残らずお納め下さい（高校第九回卒業の方まで）
十年まとめてお納めの方は九〇〇円
お払込みには同封の振替用紙を御利用下さい
（卒業回数、クラス名をお忘れなくおかきこみ下さい）

メキシコの旅

氷上貞子

羽田空港からバンクバーまで八時間、それからメキシコ市まで六時間の飛行でメキシコ（土地の人はメヒコ）につく。首都メキシコ市は海抜二三〇〇米以上のところにあって、雪をいただいたポポカテペトル（富士山に似た山）とイスタシーワトルという二つの名山が遠くにそそりたっている。スペイン風や近代的な建築物の美しさ、花や木や街路の美しさ、あふれでている噴水、ほりの深いスペイン型の婦人の顔、男子のソンブレロ街を流しているギターひく楽人たち——きらきら輝く高原の陽をサングラスでよけながら、メヒコに来てよかったとしみじみ思う。メキシコ市の街路は美しい。特にラ・レフォルマ大通りはアラメダ公園の近くからチャプルテペック公園まで十三キロにわたって走っている。中央にはダリアなどの咲いている緑地があり、その左右に中央車道、並木をへだててその両側に側車道、また並木をへだてて歩道がある。街路の幅は平均五〇米位、中央、側車道ともに自動車が流れるように走っている。この中に英雄の像、独立記念碑、石油産業記念噴水などがある。この道のつきるところにチャプルテペック公園がある。清らかな池と杉、松しゅろ、しだ、百年もたった大木が生い茂っている。この公園は市民の遊園地で動植物園があり、風船売りがのんびりと歩いている。中にチャプルテペック城がある。高い丘にある宮殿で、アステックの帝王が宮殿として用いマキシミリヤン帝もここに住んでいたという。今は歴史博物館となっている。

龍舌蘭

メキシコの大学都市はメキシコ文化の中心地で市の南にあって建物は熔岩台地の上にたっている。五万坪の広さで二万六千人の学生をいれることができ、アルマン前大統領が残した最大の偉業である。メキシコの有名な芸術家の壁画が訪れる人の目をうばっている。メキシコの最新設計家を動員してつくったものなのだそうでメキシコ色がゆたかである。

蘭、ブーゲンベリヤ、グラジオラス、ダリア、チュベローズ、ばらなどメヒコの花は鮮かで美しい。街路の紫色のダリアの植込、スペイン風の住宅のへいにけんらんと咲き誇るブーゲンベリヤなどいく度立ち止まって眺めたことであろう。メキシコ特有のドライフラワーも趣がある。市場や街頭の花やも何となしに異国的なふん囲気をもっている。たくさんの竜舌蘭やサボテンがメキシコ郊外に群生している。私たちの身長ほどの竜舌蘭、その繊維は見事なテーブルセンターとなって市販されている。サボテンの実を露店で氷の上に並べてうっている。緑色のとピンクのとがある。味わってみると甘い。種の多いのが気になる。サボテンにはまっ直ぐな棒のようなものもあって住宅のへいになっているのもあった。

写真はアンブレラツリーの骨だけの傘をさしたようなえんじの花

風売売り

メキシコ市で10回の荒木千代子さんに偶然お会いして何から何までお世話になった。ワカバ会員にメヒコでお会いするなどとは夢にも思わなかったので嬉しかった。ボストンのハーバード大学の門前ではカルフォルニア留学中のワカバ会員に偶然お会いした。世の中はせまいとしみじみ思った。世界中でワカバ会員が活躍していらっしゃるのは何より楽しい。スペイン語がたどたどしくてメヒコの町の人と話ができなかったのは残念であったが、メヒコとアメリカとを涼しく旅行できたことを感謝している。

丸山先生米寿祝賀会その後

丸山先生には三月二十八日の米寿祝賀会のことをお便りの度によろこばれ皆様によろしくとのことでございます。先生にはお元気でいらっしゃいます。

前号の「わかば」でのお知らせ後の御報告を致します。

その後の記念料拠出者芳名（敬称略）

旧職員　斉藤きよ　七ア深田
千鶴子　八ア奥井文恵　十ア
小野　薫　十ア手島久子　十
ア依田幸子　十一ア須藤喜代
十三エ倉持恒井　十五ア山本
タマ

記念品料総額	八四九、二〇〇円
贈呈額	七三三、九六五円
諸費雑費	一一五、二三五円
差引残額	〇円

かたすみ

涼風が立ち初めると、ああ、会報を出す時が来たと思う。やがて幾雨かがすぎて朝夕肌寒くなるといよいよ発送である。▲正式に編集を命じられてから、いつの間にか四年経った。最初は、活字の号も知らず、割付が紙面にどのような方向に流れるかも知らず、改めて古い会報の一段の字数から数えてみるといった、基礎の基礎から覚える段階であった。▲それだから春秋二回の毎号、出るたびにお小言を頂戴した。三、四人がかりで目を皿にしたはずが、誤植がある。妙なところで切れている配置が妙である。企画は編集だけの責任でないとしても、技術面のことは言いわけがたたない。何のことはない、毎号叱られる為に作ったようなものである。▲ミサイルの、月ロケットの、という時代に、会報は、文芸誌とも商業誌とも違うのだという当りまえのことが、このおろかな編集員を四年間ささえて来た。それは、同窓生という、一つの深いつながりを持った、それでいてとらまえどころのない、ひろがりを持ったグループへの、信頼と期待である。地方のどこかで、また忙しい日常のひとときに、ほんきでこの会報を読んで下さったと聞くことは、私達への最上の讃美なのだ。▲編集の正式任期は五年という。バトンタッチのことも考えておかなければいけない時だ。毎回、色々な方にお手つだいをいただいたが、まだ続けて見ていただける方に会えないでいる。はじめは他に本職のある人間が手弁当で奉仕したのだが、今は時世が変って、お弁当だけはいただく。もし若い方がやって下さるなら、僅少でもお礼をすべきだという声も出ている。とにかく新しい感覚の方にゆずりたい▲一九六二年秋の号も、新旧両会長の御挨拶を冠頭にいただいて、出来上った。今回はかずかずの悪評お叱りにまじって、「何て下手なことをしているのか。ちょっとかしてみなさい。やってあげるから」という声が聞えてくることを心から期待している。（編集）

わかば保育園

わかば保育園はお陰様で先生も子供達も元気で発展の道をたどりこの六月一日に創立五周年記念式を行いました。

四月二十九日の天皇誕生日には民間優良福祉事業社会施設の一つとして表賞され、天皇陛下から金一封を拝受いたしましたことをご報告申しあげ、会員のみな様とともによろこびたいと存じます。

お願い

○きれいな包装紙を下さい（子供達は折紙よりよろこんで色々なものを作っております。）
○お子様方のパンツやズボン下の小さくなったのを下さい。
◎届け先　ワカバ会又は保育園

雲の上団五郎一座へのおさそい

一昨年観劇会を行い大好評を拍しました「雲の上団五郎一座」の続編が昨年に引き続き今年もまた行われます。ワカバ会では観劇御希望の方の御依頼を受け纒めて切符を取りましたが、少々残っておりますので御入用の方は至急御申込み下さいませ。

十二月八日（土）夜の部
A席　九〇〇円　B席　五〇〇円
申込先　ワカバ会　(451)〇二二七

会員寄稿欄

フィンランドのお話

四オ　相嶋千恵子

七月二十日から八月二十日まで一カ月世界青年友好祭でヘルシンキへ行って参りました。世界一三七カ国が参加し約二万人の各部門代表が集まりました。私は全日本芸術舞踊協会から洋舞代表五人の中に入れて戴きました。これは二年に一回各国が順番に主催して十日間色々な交歓を致します。その間の感激はオリンピック以上です。

フィンランドの夏は日本の十月末の気候で、日増しに寒くなっていました。お部屋の中は、暖房が入っていました。白夜といって夜十一時まで明るく、午前三時には夜が明けます。海に面した市内には多数の湖があり白樺の林とモミの木が繁りジャスミンの香り高い花が多数咲いていました。木の間をリスが遊び湖のそばには色とりどりの美しい喫茶店があります。

道路の巾の広いこと、家屋の大きいこと、それだけでものんびりした気持になりますが、都会の騒音がないことがうらやましいかぎりでした。

自動車も音を立てず人間も小さな声で話します。汽車電車の発車もベル一つならしません。

電車の中でもバスの中でも椅子が前向きなので皆静かに乗っています。

道路は毎朝、そうじ車が大きな刷毛と水で洗い流しますので靴がよごれませんし、紙くず一つ落さない習慣で、裏通りでもゴミ箱一つ見かけませんでした。また芝生が多いのですが子供でも中へは入りません。

子供達のあいさつも可愛いいのです。ちょっと腰を落して「キートス」といってあいさつします。フィンランド語以外通用しないこの国では特に人間の心の温かさを強く感じました。

中流家庭に招かれた時、その家の娘さんで十七才になる少女は、私達をお風呂に入れて（サウナというむし風呂）くれましたが、一人一人体を洗ってくれたり洗髪してくれて後、櫛できれいにとかしてくれました。

町でほろよい気嫌の人達に話しかけられたりしていると、必ず側にいる誰かがいつでも私達をかばってくれました。それもいい争いでなく、常にユーモアで解決してくれました。いよいよヘルシンキを出発する日、宿舎にはいつの間にか、たくさんの少年少女が部屋のとりかたずけや、そうじを手つだってくれました。また、駅頭には自分の国の人を見送るのではないかと錯覚を起こすほどの大勢の町の方が、それぞれの贈り物や花束を持って、男も女も年寄りも中年の人も、若い人も子供も、みな心から涙を流して別れをおしんでくれました。これは永久に忘れられない感激でした。

家庭訪問したいと思い、町で車をとめていた若い夫婦の家へ参りました。だしぬけに訪問した家でも夕食後の部屋はキチンと整理され、いつ人が見えても良いようになっていました。これは本当に学ぶべきだと思います。また、むだな家具や道具はなく、ミシンがテーブルになって玄関に置いてあったり、ステレオの上がかざり棚になっていたりしていました。女の人を非常に大事にしていますが、女の人は決していばってはいません。むしろひかえ目に本当にやさしく男の人を立てていました。女性でオフィスやお店やデパートで働いている人は大体中年以上で、非常にみだしなみが良く清潔でした。

若い女の人はあまり見かけませんで、皆べんきょうしたり結婚も早婚とのことでした。

日本の着物と傘はどこへ行っても喜こばれ、うらやましがられ、そばへ来て手でさわってみたりしますゆかた姿もよかったようです。

身長のコンプレックスも、それほど感じませんでした。小柄の人もたくさんいます。日本は食物にしても、衣類にしても、家具にしても、すべてあまりにもぜいたく過ぎると思いました。もっと精神的に豊かになりたいと心から感じます。

催物係繁昌記

四オ　原口左与

虚脱感というより真空状態に近いところといった方が適切な目下の心境だが……

寝ごとにまで「切符買って下さい――」といったとかいわないとかの凝りようで「売った切符が五万枚……」とまでは行かないでも一階全席貸切り予定額がめでたく「満員御礼」と相成っての無事終了。終ったトタンにへなへなと座りこんで目を回わしそこねたというお粗末の一席。君知るや係のこの苦労？　催し物の売り上げは収入予定額に計上されているだけに興行は水もの…と失敗をあっさり水に流すほどの余裕はなく、そのうえ今年のように一本勝負ともなれば係の目も日が近づくにつれすわって来ようというものである。

だんだん柄の悪い人相がより一層そちら方面にてり栄えて、当日は残り切符を手にしていつもどおりダフヤを向うに回わしてにらめっこ、それでもあたりに気を配りながらぐっとサビを効かせて声を落とし、「えー切符はいかが」「A席お安くしておきます」（とはいわないけれど）……。

「今年はお寒くないだけ少し助かりそうね」美しき相棒とお互いに慰め合いながら覚悟のほぞをきめていたら、切符の売れ行きは意外の好調で「立ち売りに及ばず」と副会長からのお達し。当日は受付けのテーブルの前で「えへ…はじめの切符さばきの計画が当ったんだナ！」とはいい気なものだが少少悦に入っていた。

処が処が、「あのう五枚余ってしまったんですけれど」「私四枚お返ししたいのですが……」「うえっ」ととび上らんばかりに驚きはしても、そこは係りの辛さ「はあそうでございますか、どうも恐れ入りました」うやうやしく切符を頂戴してあらためてがっくり！

開演五分前の出来ごとでございますからねえ。

脱兎のごとく、当日売りの営業部屋にとび込んで「誠に、誠に…ほんとうに、す、み、ま、せ、ん」と文字通りの三拝九拝、いつもなら「団体さんの切符は売れないんです違反になりましてね。ご勘弁のほどを」と態よく追払われるのが関の山だったが立ち見席を出してもまだ足りず、外からお客にやいのやいのいわれてた窓口はこの返辞で受け取ってくれる。「君にも金儲けができる！」なんてお人が悪い、「僕はしてたま儲けます！」でしよ東宝さん。といいかかって危く口を押える。

チリ、チリチリ、開演ベル、出演者に故障もなく、つつがなく幕も上ったらしいし、やれやれ。

――◇――◇――

柄の悪さ丸出しを申しあげましたが、金儲けと申しますのはミュージカルとはうって変って大変難かしく辛くきびしいものでございます。にもかかわらず今回の観劇会が大変輝かしい成績でございましたのもひとえにみなさまのご協力と心よりお礼申しあげ、ほんとうにありがとう存じました。今後ともどうぞくれぐれも宜しくお願い申しあげたく「と、ざいとうざい！」隅から隅まで、ずぅーっとお願い奉るしだいにございます。

鞍馬の竹伐り

九ア　野島いさ子

五月の賀茂の葵まつりの華麗な行事が終り、新緑の六月になると二十日が鞍馬の竹伐り会式です。

今年は関西ワカバ会の辰馬道子・丸山正子両先輩というまたとない良いお連れがあって、出不精の私も勇んで見物に出掛けることになりました。

竹伐りは鞍馬寺本殿前に、東西に分れて勢揃いした鞍馬法師が、山刀で大青竹を伐り、早さを競ってその年の豊作を占うという神事です。出町柳の駅から約四十分で鞍馬駅、そこからケーブルも出ていますが私達は歩いて登ることにしました。相当険しい坂を寺まで約一キロの九十九折。亭々たる杉の幹の直線が全山を覆って、梢のどこかに烏天狗が今も影をひそめている気配の深山ですが、今日ばかりは駅も電車もケーブルも、そしてこの山道も人でいっぱいです

途中、由岐明神の拝殿を過ぎました。坂道をまたぐ形で楼門の様に建っていて「割拝殿といって此の形が珍しいのよ」と丸山先輩から説明がありました。有名な鞍馬の火祭りは、このお社の行事だそうです。

勅使門に着いた時は、絵で見る弁慶そっくりの大総法師仲間が、ちょうど列を組んで出仕に向うところでした。私達はその列の中に割り込み、押されながら本殿前の境内にはいりました。物凄い人の群れおよびカメラの群れです。

山の空気は清澄で快適ですが、六月の陽ざしは強くなかなかの暑さです。

管長以下一山の大衆が装束を整え、次々と儀式が進みます。牛若丸のような稚児も二人見えます。

竹は何メートルもある太い青竹で、昔、悪い大蛇を毘沙門天が退治したという伝説にもとずき、その大蛇になぞらえて伐られますですから、元来は、一本だけを伐ればよいわけですが、徳川時代から、近江座、丹波座に分れて一種の競技の形になったとの事です。

私は何となくノコギリのようにゴリゴリとひくことを想像していましたが、管長の桧扇の動きを合図に、気合い鋭く山刀を振うと、まさに一刀両断、爽快な一瞬ですつづけさまに竹二節ずつ三段に伐り終ると、今年は丹波座が早く「丹波の勝!!」と伐った竹をかかげて群集の中を走り抜け、勅使門から石段をかけ下りて、どこかへ行ってしまいました。それでおしまいです。あっけない程に、目まぐるしい早さで終ってしまいましたが、まことにすがすがしい充足感を覚えました。

今年の丹波座は六年ぶりの勝だったそうです。勝った方は本坊の金剛寿命院へ走り込むことになっているそうですから、今日も多分そうだったのでしょう。

私達はそんな事は知らないので「あの伐った竹を持ったまま一体どこまで行っちゃったんでしょうねえ」と笑いながら、帰りもまた歩いて鞍馬の山を下りました。

六波羅蜜寺にて

傍の顕っ余地も無く右ひだり家並
みたて込む六波羅のあと
軒低き町の家並みにはさまれて六
波羅寺は雨にぬれ居り
悩みつつ小松内府のありし日もか
わらぬ今日の雨の暗さか
消しがたきわびしさよ空也上人の
顴（かん）骨高き顔するどくて
蝋燭のかげに確かに生きて坐わる
清盛の目を友も我れも見つ
匂やかに夢見地蔵の御目あり寿永
のいくさを知るおん目なり
観光の我等平家にあらぬ身の因果
の雨か止む気配なく

お薬と医師

十四ア　門川美代子

サリドマイドという睡眠薬を、妊娠初期に常用すると、アザラシ型の奇型児がうまれるという発表は妊娠中の母親達に、大きな不安をもたらした。

お医者様の話をきくと、妊娠初期は、睡眠薬に限らず、風邪薬なども、メッタヤタラにのむのは考えものだそうだ。

メッタ、ヤタラに……われわれ日本人は、どうもお薬に対する知識が豊富なのか、貧困なのか、売薬に頼ることが多い。

一つには、病院にいくのが面倒くさい経費がかかる、ということで、薬局を頼ることになる。

知人の家で、私の息子が熱を出した時「これ飲めばすぐ直るわよ」とそこの奥さんが、お薬を出して下さった。見たら、ある抗生物質だった。

「うちの子は、風邪でも、おなか痛みでも、これさえのめばすぐ直るの」

という頼り方に驚かされた。医学の知識のある人ならともかく、素人が、それも子供に、何でもかでもこの薬を、と伝家の宝刀のように思いこんでいる。

病院にいくのが面倒くさく、経費もかかるという点では、また、電話で診断を問うというやり方がある。私も時々、この手を使う。

「先生、湿疹が出来たんですけどどうすればいい？」

「熱があるんですけど、何のめばいいか教えて下さい」

知り合いの親しい医師は、ブッキラボーに答える。

「診察しなきゃわからないよ、何の熱だか湿疹だか」

「電話じゃわからないの？このヤブ奴！」

という方が土台無理な話で、やっぱり病院に行かなきゃならない

この電話診療で、タダですまそうというズルさも、日本独特のものかと思ったら、外国にもあるらしく、こんな笑い話を読んだことがある。

あるアメリカ人が、電話で医師に診察を乞うた。

親切に手当て方を教えてくれた医師から、暫くして請求書が届いた。

「電話でちょっときいただけなのに、金を払えというのか」

と怒った男は、自分の弁護士に電話をかけてきいた。

「払わなくちゃいけないものだろうか？」

「そりゃ、やっぱり払うべきですな」

と弁護士は答えた。暫くして、弁護士から請求書が届いた。

卒業雑感

十ノ三　本城章子

昨今、大学管理制度を回っていろいろな論議が取り交されていることは周知の通りである。これほど世間が大学教育の在り方というものについて関心をもったということは今までにちょっと類のなかったことであろう。

私は今春、東京女子大学を卒業した。そして四年間の大学生活を通して私の感じたこと、見聞きしたことなど思うままに綴ってみたい。そしてもしこれから大学へ進学なさろうとする方々へ何らかの示唆が与えられたら非常にうれしいと思う。

四年間の学生生活は長かったようで非常に短かった。高校生活の三年間も私にとっては光陰矢の如しで、あっという間に過ぎてしまったのであるがそれにもまして長いはずの大学生活は全く短かく、いつの間にか社会へ踏み出している自分に改めてびっくりした次第であった。人間、ある種の感激は感じたその時やって来ないであとから徐々にまたは突然襲うという経験がある。今の私がまさにその通り。大学を卒業してその卒業した当座は何も感ぜず、卒業を人生の課程における一つの橋渡し位に考えていた私が、今になってあのなつかしい大学生活をふり返るのにもってして強い感動を味わずにはいられないのである。

もちろん、学園の四季には何の変哲もなく、また秋が回って校門のいちょうの木は真赤にうれた銀杏の実を落し始め、そろそろ学園祭の準備に卒論の準備に学生達は忙しくなり始める季節である。しかしその中に往来する学生達の姿は去年と変っている。そして彼女達の胸に宿るものもまた刻々と変ってゆきつつあるのだ。無窮に時は過ぎてゆく。彼女等の上にもそして私達の上にも。

しかしその無窮の時の流れの中に私は決して時と一緒には流れ去らないものを見出したい。学園の生活は短かった。しかし短かいということでそれはもう終ったということにならない。いやむしろ始まりと呼ぶべきであろうか。現実に根をおろした着実な生活をもう私達の同輩は始め、一歩一歩社会へ踏み出して歩いてる。当然だといえばそれまでであるがやはり私は胸が熱くなる思いである。しかしいずれ人間は成長して大きく社会へ踏み出さなければならない。そして、そこに自分自身の人生を着実に選択しなければならないのだ。常に飛躍のある、そして進歩性のある人生をかちとるために私達は努力に努力を重ねなければならない。

大学の道徳教育が云々され、また女子大花嫁学校論及び無用論が飛び出すに及んで今後私達は大学の教育、特に女子大における教育問題に注目したいと思う。成程、女子大は普通の共学大学より人数においても規模においても劣るしまたその他いろいろな学問的設備などにまま欠陥の多いことも否めない。しかしそれだからといって女子大の価値をその程度のことにおいて損うことはあまりに非常識な考え方ではあるまいか。就職率だってそれ程華々しい成績とはいえないがしかし、希望者はまあ割に適時場所を得た所におさまっている。彼女等はそれぞれある一応の目安はたて、結婚という問題を除外視せず着々地味で堅実な人生を歩んでいる。私は女子大無用論などもっての他だと思う。

そういうことをいう人は本当の女子大の良さを知らない人だと思う。大学教育が云々される昨今世間がもっと目を開いて、真の大学教育とはどういうことかをもっと真剣に考え、そしてその論理の根底にある真実をよく探り出してもらいたいものだと思う。

「或る同窓生の生活」（一）

平瀬　文子さん（九回イ組卒）

平瀬さんは、女として日本にただ二人の「監察医」のお仕事を十五年間続けてこられた方である。著書の「監察医のメモ」（昭和三十四年九月刊、東都書房発行）でご存じの同窓生も多いことであろう。そのお忙がしい平瀬さんに九月のある日、九回イ組卒業の同窓生としてのお話しをうかがいに現在講師をしていらっしゃる女子医大にお訪ねした。

大学の殺風景な、薬品と書籍にかこまれた部屋の壁に、これはまた楽しく明るい自筆の花の油絵が二点かかっている。

平瀬さんは白い上っぱりを着て、煙草をふかしながら、低いやさしい声で話される。かざり気のない額の眼鏡の奥から人の世の裏の悲しみを毎日の仕事の中で見つめてこられたひとみが静かである。男まさりという方なのかもしれないが、お話しの間にデリケートな美しいお人柄にふれることができた。以下はその時の平瀬さんのお話しを抜き書きしたものである。

監察医になった動機は

医学をすると普通は臨床だけど、私もはじめは東京女子医専を出て二年くらい個人病院で外科の臨床をやって、昭和十六、七年ごろだから男の医者は出征するし、泊りこみまでして毎日手術なんかしていたけど、やっぱり勉強したくなってね。研究して学位を取ろうと思って慶応大学に入ったんです。法医学に入ったのは偶然です。そこで研究して学位をとって終戦後、米軍の命令で昭和二十三年三月三十一日に監察制度ができたので今までの研究もすぐ生きるし法医の就職も少ないしするので、監察医になったんです。

医者になった動機は

女学校時代に、ボーイフレンドなんか作って遊んでたってつまらないし、長唄とかなんとかお稽古事は大嫌いだったし、裾ぐけばかりやらされるお裁縫なんかも大嫌いでね。女が独立する道としては、医者が一番いいと自分で考えて選んだのです。身近の人に医者はいないけど、兄弟も多いので、まあ希望が許されたわけですね。だからそのころの女の子の生活への反発はあったわけね。それ以来女の古くさい生活とは縁が切れて満足しています。

日課は

朝は犬の散歩をさせに歩くのがとても健康にいい。家のことは女中さんにまかせきりで、女としての生活は何もしない。毎日は自動車で出勤して監察医務院にゆき、週二回、東京女子医科大学の法医学教室の講師にきています。監察医本来の検案や死体解剖とその報告のほかに、事件の証人になって裁判に出ることもあります。このごろの推理小説ブームで、作家たちによばれて監察医の様子をはなしたりすることもあります。レジャーは、冬はスキー、夏は水泳に医者ばかりのグループで出かけます。

絵をお描きになるようですが

ええ、好きですね。七年前ごろ喫茶店で日曜ごとにならったのが始め、今は女子医大のクラブで一緒にやっています。「花」が主だけど、伊豆山なんかの風景も描いたし、六月ごろ学会の帰りに犬吠崎にいって燈台をかいてきました。いつか週刊誌に出た時、赤い色は使わないと書いてあったけど、赤いのだってかきますよ。そらそこの壁にかかってるのも、赤いバラでしょ。かくのは大抵夜です。毎日あまり綺麗なものを見てるわけじゃないからスキーに行って雪山を見たり、画を描いたりするのはいいですね。下手の横好きですよ。

この頃のお仕事を通してのご感想は

若い人にとくにいいたいことだけど、自殺はいけない。一人でアパートなんかで暮していると、生活がつまらなくなったり、なやみごとがあったりすると簡単に自殺してしまう。一人暮しをする人は、いつも家と連絡をとったり、友だちと話しあったりすることが大切ね。一人でとじこもるのが一番いけない。睡眠剤なども、若い内はとくに飲まないようにして、スポーツやハイキングなんかでからだをつかれさせてねむるようにしないといけない。自殺は、夏は比較的少ないが、春秋は多いから気をつけなくちゃ。一家心中は少なくはなっているけれどまだある。子供は絶対に道連れにすべきでないですね。今の世の中の特に男の人は疲れすぎていますね。お金のため、出世のために疲れすぎてるから事故も多いし、突然の病死で事件かと思ってしらべると、心臓がよわっていて急死だったりする。奥さんたちもそこをよく考えて働かせすぎてはいけないですね。日曜日は休養すべきです。何事も無理はしないでからだを大切にするのが何よりです。丸山先生のご薫陶ではないけれど「まずからだを大事にせよ」ですよ。勉強も大いに頑張ってやってほしい、ノイローゼにならない程度にね。

女としての理想の生活は

私たち監察医の生活は、今女は三年先輩の人と二人きりであとが続いていません。九時出勤で夕方までの勤務だから時間的に無理ではないけれど仕事の性質からいって、疲れもするし、普通の家庭と両立させてやってゆくのは大変でしょう。法医学を学んで学位はとっても、職業にする人はこれからでも少ないでしょう。私自身はこの仕事をえらんでよかったと満足はしているけれど、人にすすめようとは思いません。大変ですからネ。一般的にいって、この仕事を通して世の中の裏をみていると、女の人は子供の教育をよくすることをもっと考えてほしい。古いといわれるかもしれないけれど、結婚したらつとめはやめて、よい家庭をつくるために力を集中して四十位になって子供が成長し、時間の余裕ができたら五十位までの元気な間は大いに社会の役に立つように仕事をもって働くべきです。それには若いうちに何か独立できるものを身につけてから結婚してほしい。それがあれば、四十すぎてひまになってから、うるさいお姑さんになったり、若い人からもてあまされたりしないで、外へ出て働こうという気になるでしょう。世の中も元気な中年の女の人をもっと働かせるべきです。戦後は日本も女の生活がよくはなったけれど、まだまだ時間を無駄にしている女の人が多いですね。同窓会の仕事なども、音楽会でもうけたお金で早く土地を買ったり、部屋をかりて皆でたのしめるようにしたりして、働いてその喜びがかえるようにするとよいですね。明るい老人のいこい場なんかも同窓会でできたらすばらしいですね。

今後のご希望は

第六時代に丸山先生に沢山あるかせていただいたおかげで大変元気で健康だから満足して働いてゆくつもりです。外国にも一度ゆきたいですネ、勉強や遊びにネ、まあ人間、世間的な野心を持たないで、無理しないで、楽しくくらすのが何よりですよ。

× × ×

「ある同窓生の生活」の対談は毎回続けるつもりですので、御希望の方を御推薦下さい。

原稿募集

次回締切　三月末日
字数　一〇〇〇字　程度
研究発表などは字数がふえても可
（編集部）

新名簿

一部　三〇〇円

郵送ご希望の方は送料九〇円を共にお送り下さいませ

○三年に一回位しか発行できませんのでご入用の方はお早くお申し込み下さいませ

○以前にお代を添えてお申し込みになってまだお手元にとどかない方は至急おしらせ下さいませ

御送金方法

「振替東京八一一七〇番ワカバ会宛」のご利用が一番たしかです

卒業回数クラス名をお忘れなくご記入下さいませ

お願い

○転居町名変更電話の局番番号の変更の場合は至急ワカバ会におしらせ下さい

○お手元にとどきました「会誌わかば」の帯封の住所が少しでも違っておりましたらご面倒でもおしらせ下さい

完全なものにしたいと存じます

立山・黒部の旅

四ア　薄　二穂

空の碧茄子の紺にはじかるる
肌にふるる風の一つに今朝の秋
そゝり立つ山の緑が秋にあり
地獄谷地熱をあげて秋立てり
湧く水に今日の幸さづかりし
炎天をこえきし風のよろめける

潮風の秋をはらみて来たりけり
秋立の案山子同志が恋うている
おとがいの尖りしほどに夏負けぬ
風呼びて風にうなづく萩の花

十月二十日一年振りのクラス会に安河内先生を囲んで十三人楽しいひとときを過す

木犀の咲く頃口をききそめし
ぽっくりの高さ四寸にしぐれいる
雨だれの音ひえびえとまたさるる

アンケート

「出題」

一、あなたは同窓会総会に今まで何回出席しましたか。

二、ワカバ会館を、卒業してからどの位訪れましたか。またはどの位利用しましたか。

三、同窓会への関心はありますか。

四、同窓会運営について、今後どんなことを希望しますか。

「答」　一B

一、殆ど毎回

二、よくうかがいます。利用もします。

三、大いにあります。

四、老人ホームをつくりたい。それによい名前をつけてほしい。

二D

一、一回

二、度々訪れた。

三、大いにある。

四、①社会奉仕的な仕事、または社会事業への協力。

②会館に掃除婦を雇って整備し、貸出しを多くして、利益をあげるる。

③ワカバホームをたてる。

④若い人のダンス・パーティなどに会館を貸出してほしい。

三C

一、五回

二、大いに利用している。

三、大いに関心がある。同窓生間の新近感が深いことをよろこんで誇りとしている。

四、現状で満足です。

九回

一、三回

二、クラス会で利用

三、①総会を年令別に分けて行ってはどうか。

②老人ホームを作ってほしい。

③旅行会は大いに希望する。

④もより会をもっと育成して積立金などしてはどうか。

⑤若い人のダンス・パーティに会館を利用してほしい。

十二回

一、なし。

二、クラス会で度々利用する。

三、大いにあります。

四、①観劇会を催すのに賛成。

②旅行会の催しもよいことだから、会員外のもの（肉身や親友など）も認めてほしい

高校六回　男

一、六回

二、五、六回訪れた。クラス会にも利用した。

三、普断はあまり関心はないが、折にふれてなつかしく思う。

四、運動の会やダンスの会もしたい。催し物は安い費用でゆかれるような（五〇〇円以下が最高の）のがないだろうか。

高校十回　男

一、三回

二、十二、三回訪れた。

三、大いにあります。殊に会を通して、縦のつながりがもてるのがよい。

四、いろいろの催し物に、若い人が企画するようなのもほしい例えば運動の会などもしたい

高校十四回　女

一、今年行かれなかったので、まだ一度も出席しません

二、三度

三、同窓会があることは、クラスの人だけでなく、縦のつながりがあるということが、よいことだと思います。

四、まだよくわかりません。会誌が読みたいと思います。

公認

南塚洋裁学園

園長　南塚トキ

東京都渋谷区金王町22番地
国鉄・私鉄等交通は全部渋谷駅
東急文化会館のうしろ隣
電話　青山直通（401）0248番
交換台（401）2171～9

＊　美容と医学が握手した
新しい健康の部屋

サロン＊ド＊サンテ
SALON DE SANTE

南塚ビル（渋谷・東急文化会館うしろ隣）
東京都渋谷区金王町22番地
TLE（401）0248（直通）（402）2171～9（交換台）

亡き人を偲ぶ

三A　平野（稲富）喜美代　昭和三十七年九月　五日逝去
四オ　法専（南川）正代　〃　十月十二日　〃
六オ　吉田（志賀）ハマ　〃　六月　二日　〃

平野喜美代様を偲んで

三A　田巻光

九月五日午前、「今朝とうとう亡くなりました」というお電話を御主人様よりいただきました。

かねてお悪いとは伺い、その二三日前にもお見舞いに参りましたが「今輸血のすんだところでつかれていますので」との御三男のお話で、お目にかからずに帰って来ました。七月末にお伺いした時は割合お元気で「秋になったらもう一度手術をするのよ」などといわれておりましたが、御主人様のお話では、「本人は知らないのですが、もうあのままやせる一方なのだそうです」とのことで、何とも申し上げる言葉もなくお電話をきったのでした。

戦時中より新潟の片田舎に暮すようになった私に、突然柏崎から電話を下さったのが、かれこれ十年位前のことでした。その頃の私にはとてもうれしいことで、早速三時間程かかるところをお尋ねし御家中の歓待を受け楽しい一日をすごしたこともございました。その後、秋田新潟と、日本石油の所長として御転任の御主人と共に移られましたが、新潟にいらっしゃった頃から腸の具合がわるく時々はげしい腹痛になやませられていらっしゃったようでした。思えばその時すでに癌の芽生えははじまっていたのでしょう。あらゆる検査の結果一番わかりにくいところに病巣があったとか承りました。

昨春折角東京住いになられ「これからクラスの皆さんにもお目にかかれるし」と楽しみにしていらっしゃったのに、一度もその機会もなくこんなことになり、かえすがえすもお気の毒に思うばかりでございます。

お通夜お葬式にお伺いしましたが、御立派にお育ちのお子様達のお姿に接しどんなにか心残りでいらっしゃったことでしょうと目のうるむ思いでございました。

最近は一番お親しくしていましたが、まさかこのような悲しい拙文をつづるようになるとは思いもよりませんでした。

法専正代様の死を悼む

四オ　中島敏子

雨雲の低く垂れ込める十月十四日の午後二時、、私共級友の十一名は舗道に立って正代様の柩の前に深く頭を下げた。原口さん、田中さん、中川さんの三人が最後の対面をなさって外に出ていらっしゃった、続いて自動車で野辺送りをして下さる。忘れ形見の十歳になる一代ちゃんが白木の御位はいを手に悲しみを表わすには余りにも幼い姿であらわれた時、私共は改めて正代様の心のうちを思い涙にくれた。

法専さんが御病気のことを伺ったのは去年五月二十八日、四回卒三十周年記念会が開かれた折、田中さんからであった。子宮きんしゅで切開手術の後、麻酔による後遺症で運動神経を冒され、言語障害を起され、体の自由もきかず、面会してもお話も出来ない状態とのことであった。

おそい御結婚後、ようやく一代ちゃんをもうけられ、三十四年のクラス会にはお嬢ちゃまをお連れになって御出席されたのに。

それが十一月二十日、上野文化会館でワカバ会の音楽会が催された夜、もう初冬の寒さが肌につめたい頃なのに正代様をお見受けした時は吃驚した。御近所にいらっしゃる五回卒の渡辺様に助けられてようやく御出席なさった由、まだお顔の色も冴えなかった。明けて六月十日、私共のクラス会が多摩川園前の料亭で開かれた折、田中さんがお宅まで迎えに行かれ、帯を締めておあげして、ようやく御出席になった。この時私は出席出来なかったため、正代様が私に逢いたいとのことで、田中様の御連絡により私の住む逗子と正代様のお宅の鶴見の中間の北鎌倉の田中様宅に寄せていただき、楽しい半日を過させていただいた。私共一年より五年まで同じクラスで同じ主任の先生の許に、よき時代、女学校生活を送ったが故にその親しさは格別のものがあって、何時お逢いしてもそれぞれの方の面影の上に幼い日を思わずにはいられないものが、正代様をこうしてクラスの方々をなつかしくさせていたのだと思う。つらい斗病生活をまだたどどしい御言葉で語られ、それでもだんだん回復して行くよろこびが強く、もう一度よくなって、よくして下さった御主人様、御子様へ御恩返しをしなくてはとおっしゃっていられた。十月頃逗子で逢いましょうと御約束して別れた。

九月十八日の朝、田中さんよりお電話で正代様の具合がお悪いのではないかとのお知らせを受けた。それも具合わるいことに御自分では何んともないとおっしゃって外出勝ちとのこと、田中さんの御心配を私も分かちもって、まだお逢いしたことのない御主人様に私より御電話して、正代様の御入院をおすすめした。御主人様も「はたの者のいうことを聞かないで困ります」とおっしゃっていられた。そして十二日夜、田中さんより、今朝四時二十分亡くなられたとのお報せを受けた。病名は脳血栓ということであった。外側からはだんだんよくなられたと見えた御病気もその反対で、肉体の方方に故障を起されていたのであった。

御自分も納得して御入院されたのに、三日目に逝かれてしまったとは医学の力もおよばなかったのであろうか。寿命の延びた現在に四十九歳の御生涯とは余りにもいたましいことである。

お寺の次女としてお育ちになった正代様は、竹を割ったような御気性で、お上手をいえない、思うことをずばりおっしゃるために誤解を受けることもおありであった。それで結婚されてから複雑な人間関係に入られてからは、精神的にもいろいろの重荷を負われた。それで殊更に友達を求められたのだったろう。何をいっても悪意に取らない暖かいものを求めて……。

人生の空しさがしみじみと思われる。やがては人は皆辿る道ではあるけれども。正代様の心にさぞや残られたことであろう幼い一代ちゃんの上に、神のお守りがあたえられますよう、唯祈るばかりである。

吉田はま様

六オ　岩本よ志

六月初旬の雨のシトシト降る夜吉田さんから電話といわれて……「僕、吉田の息子ですが、母が六月一日に急にガンで亡くなりました。急でしたので自分も間に合いませんでした。今遺品を整理してますが電話が控えて有りましたのでお知らせします。川崎さん。久保島さん方によろしくお知らせ下さい。」との事でした。本当にびっくり致しました。四月クラス会の前に急用が出来て出席出来なくなったからとの電話を頂いた時はお元気そうでしたのに。今までの苦労も二人の息子さんが成人されてもう一息という所ですのに、残念で残念でたまりません。

第六の入学式の日でした。父に連れられて、女学生生活への希望と期待に目を輝やかせ胸をふくらませて、神妙に控えているとき、「志賀君じゃあないか」「私も妹の入学式で」と吉田さんのお兄様に会い妹さん「はま子さん」と同級というわけで、その帰りに一緒にお食事をした事を思い出しました

五年間の女学生生活の間、勉強に運動に修学旅行にと、かずかずの思い出があとからあとからとつきません。

娘時代は何かと行き来しておりましたが、結婚後は戦時中でもあり子供も小さく日々のことに追われて年賀状のやりとり位で過ごしておりました。

終戦後まだ二、三年たった夏のある日、足利の町かどでばったり出会いました。叔父様が足利にお住いとかで、そこに行かれるところでしたが、家に寄っていただきご主人が戦死されお姑さまを見送ったことを伺い、今はお兄さんの世話で館林市の神戸生糸会社にお勤めのことを知りました。館林におたずねしましたら、城沼に面した会社の寮の大きな二間つづきのせいせいとしたよいお部屋に、子供さん二人と三人住いをされてました。製糸会社の大工場の事務所で庶務課のお仕事をしておられ、会社の人から吉田さん、吉田さんと重宝がられ、字はお上手だし仕事熱心に勤めておられる様子でした。「私も若い人と一緒に毎日ワァワァいいながらお仕事してるけれど一ばん古狸よ」と明るくいわれました。張合いのある一生懸命な生活をお送りのようでどんなにか心強く嬉しく思いましたことでしょう。

上の息子さんは大学に、下の息子さんも来春大学生におなりでしょうのに今ここで急逝されるとは返えす返えすも残念でなりません。足利へ用事の帰りにでもお目にかかってと思っておりましたのに、もうそれもむなしくなりました。この上はただご冥福をお祈りいたします。

同窓生の音楽会

佐々木成子様

十オの佐々木成子様は九月十九日、赤坂の砂防会館ホールに於て昨年八月ご帰国後のびのびになっていたリサイタルを開かれました。満場に溢れた聴衆は美しい情感にあふれたドイツリードに耳を傾け、静かな初秋の情緒にひたりました。佐々木様は十月十四日、再びウィーンに演奏旅行に出かけられ、十二月末に帰国される予定です。

桐生郁子様

高校四回一組の桐生郁子様は九月二十八日、イイノホールに於て第一回のリサイタルを開かれました。かずかずの、日本歌曲のやさしい調べを、豊かな声量で歌われ、日頃の御勉強の成果のあらわれた、いかにも新人らしい熱のこもった会でした。恩師の方々や同級生、同窓生も多数見え、心から盛会をよろこび合いました。

同窓生の旅行会

第三回わかば会旅行会の報告

時日　昭和三十七年六月二十六日・二十七日
場所　那須温泉　おだん荘
人数　七十七人　貸切バス二台
費用　三千円也

あいにくの霧の為　眺望はききませんでしたが、温泉でゆっくりくつろぎ、楽しい一泊旅行でした。

旅行会幹事

支部だより

札幌
仙台
浦和
市川
横浜
静岡
名古屋
京都
関西
福岡
大分

連絡先

札幌	五エ	臼居　和子	札幌市南二条西十四丁目高裁官舎
仙台	一E	海鉾　歌子	仙台市北五番町一一七
浦和	一C	宮田　りき	浦和市仲町五ノ十四
市川	十一オ	豊住　美枝	市川市中山町一ノ五三七
静岡	一A	谷口百合子	静岡市東草深町三ノ一
名古屋	六ウ	大谷万亀子	名古屋市熱田区旗屋町一八九
関西	一D	佐々木文子	神戸市東灘区本山町岡本字長子32
京都	九ア	野島いさ子	京都市左京区吉田橘町京大官舎
福岡	二E	富田やす子	福岡市梅光園住宅一七三一
大分	二B	有木　綾子	大分県鶴崎市三佐二一三〇

札幌

日中の日溜りにもどこからか冷い風が忍びこんで来る位、当地の秋は日増に深くなりました。支部会員約三十名、春に三越で支部会を開きました。一回の渡辺さん、三回の和地さんの大先輩を中心に新しいお顔ぶれもみえ、会えば忽ちお話がはずみ、夕暮まで若き日の思い出等語り合いました。千歳小樽からも出席され約十六、七名の会でした。近く秋の会もグランドホテルで開く計画で進められております。当地は寒さを前に建築の急ぎがあちこちに見られ、筍のようにビルがふえ、何処までふくれ上る札幌かと思われる有様ですが、明治の開拓以来のクラシックな伝統が一貫して、どこか落着いた街の詩情を漂わせており、そうした中に私共が年二回のお集りをもち、過ぎ去った第六時代を懐しく語り合い、時には年を忘れて笑い興じ、或は近況を語りお互に力となり合ってゆけるのは同窓の友なればこそと感謝しております。お勤めの関係で二、三年で御転任の方もかなりあり、お若い層は割に少いのですが、当地に御転居の折はどうぞ御連絡下さいますよう会員一同おまち致しております。

五エ　臼居

仙台

ワカバ会仙台地方春秋の会は、回を重ねること八回となり、お集りの方々も一層親密の度を加え、正午近くには広い日本間に花やかな笑いがみちみちて参りました。時は四月二十五日、所は仙台市の銀座通りともいうべき東一番丁の福寿し二階、出席者十七名。春の遅い東北地方の桜も散り初めて陽春の麗らかな陽ざしが一杯にさし込むお座敷で、時の経つのも忘れてお話に打ち興じました。今回始めて御出席の為わざわざ遠く山形市より早朝の汽車でかけつけて下さいました石川様（十一オ）に心から歓迎の意を表しました。御出席なさらなかった方に旅館を経営していらっしゃる為御出でになれなかった福島県岳温泉の鈴木様より（十三ア）祝電を頂き、皆様大いに残念がりました。みちのく仙台と呼ばれ中央文化から遠ざかった都会と考えられ勝ちだった仙台市も今は遠い昔のこととなり、近代的なビルが建ち並び、学都仙台市としても東北一を誇ってよい大都会に成長しつつあります。

けれども楽しかった学生時代を過した東京の街々、母校第六、三田近辺を懐しむ声がいつまでも尽きることなく、午後四時近く春の例会を終りました。

二十イ　水間昭子

静岡

三十四年六月に発足しました静岡わかば会も年々盛会になっております。去年の十月には御殿場の前島富子様の御宅で高原の秋を満喫させて頂き、今年六月は静岡の福山宅で開きました。お婆ちゃま組も若奥様組も和気あいあいと第六時代の思い出話にお腹をよじって笑いころげたり、又現実の生活経験を披露し合ったり、いつも楽しい一日です。殊に六月には新しい十八回の方お二人も加わり、出席者の半数をしめ俄然優勢になりました。今月末には秋の会を清水にお住居の福島様宅で開いて頂く予定で、会場の廻り持も楽しみの一つでございます。

会員の御希望で次に今迄御出席下さった方々の御名前を記しました。

一A　谷口百合子　福山　信子
二C　津田　末子
三D　福島　桃子
四オ　島田　昌子　ア滝口小枝子
六イ　大川　文子　ア笹川　政子
八エ　野高　静江
十イ　染野つや子　ウ古橋　澪子
十二オ上村　友子　オ小糸鯉代子
十三ウ朝倉　麗
十四ア大川　妙子　オ神谷　静枝
十七エ蓮池たまゑ
十八ア米倉　幸子　イ本多千惠子
イ　益田　和子　イ田中　和子
エ　伊熊　道子　エ陽　光子
オ　前島　冨子
二十ア児玉あや子

県下に御在住の同窓の方々どうぞ御連絡下さってお互に睦び合い助け合ってまいりたいと存じます

一A　福山信子

関西

関西支部はこのところ暫く何の催もなく、又訪れて下さる方も無いまま眠ってしまったような有様でございます。

本年の春は京都に集りました。街の中で（中京区大宮御池下ル）三百五十年余も無事に保存されている重要文化財の二条陣屋に集りました。この建物は江戸の初期武家の生活をきらってなった商人が当時非常に横行していた夜盗や刺客の難を守るため、又防火に付いても大変な工夫をこらした大名陣屋（やどや）だった由です。創立者より十四代目の当主が細々説明をされ、その至れりつくせりの創意には唯々驚きの目を見はるばかりでした。一例を上げますと、天井板が開くと二階に通じそこの明窓は実は武者かくしの場で、階段かと思うと落し穴だったり、棚をはずすと階段で二階の部屋に通じ襖にも障子の部分を横に何段もはめ込み光を透して玄関の人影を知る事が出来るとか、全く驚くべきものでした。

次ぎの目的地栂尾（とがのお）の高山寺に着いた頃は無情の雨が降りしきり、一同は苔むす石段を一歩一歩注意深く登りました。高山寺の境内は静寂そのもので他に人影もなく、洗われた緑の木の葉の明るさが印象的でした。もくもくと歩いていたTさんが朗らかな声で「この雨の中、御苦労さんな事ね。けれどももう一度しようたって出来ないからよい思い出よ」と申されました本当にその通り、日毎にうすれて行く思い出の中で、あの日の事、私の心の奥深く焼付いてしまいました。濡れて歩く事に慣れてしまった私達は予定通り山坂を越え、楽しく散会をしたのは夕刻でした。

一D　佐々木文子

京都

京都支部は相変りませず皆元気にいたしております。九月五日には河原町の東洋亭にて久しぶりに皆様にお目にかかれました。小人数ながら楽しい一時を過しました前回の樋爪様、今井様から私ども（九ア野島、十三エ西部、十三エ藤喜）がこの会のお世話をさせて頂くことになりました。

さわやかな秋がもうやって参りました、京都におりながら一向に京都を知りません私共でございますが、おいでの折は是非御一報下さいませ、御案内かたがたおともいたしたく、皆様のお越しをお待ちいたしております。

十三エ　藤喜

大分

第四回大分ワカバ会を十一月六日に開きました。秋の長い南国九州も朝晩の冷え込みがひどく、モズの声に山々は紅葉を始めております。青い波の打寄せる別府観光港の岸壁近い湊屋に何時も変らずお若くお元気な松田先生を中心に、臼杵の久家様、鶴崎の有木様と小人数ながらたのしい一日を過しました。

何分にも九州の果て大分まで都落ちした方々はわずか六、七名、それぞれ遠くはなれて、全員顔合せの出来ませんのが残念でございます。

十三ウ　岩男

バレエの発表会おしらせ

3の6　加藤光惠

ワカバ会館講堂でお稽古を致しております バレエの発表会が、来る11月18日品川公会堂（国電大井町下車）で1時よりございます。4歳から中・高校生までの可愛らしい元気な子供たちが、未熟ながら一生懸命踊りますのでもし皆様お子様連れなどで御来場いただければ、大変幸せに存じます。

なお御来場の際は受付で入場整理券（無料を差し上げます故お申し出下さいませ。

黒須道子　19ア
料理研究所
火クラス　午前10時ヨリ
木クラス　午後12時マデ
文京区大塚仲町41
電話（941）5550